

## インターバンクの声（2016年11月30日）

寝ている間のロンドン市場後半やニューヨーク市場が動いた実際の背景を確認せず、単純にネットなどの情報を鵜呑みにしてしまうと、あとあと相場に対する感覚にズレが生じることがある。幸い社内にロンドン、ニューヨーク時間を担当する仲間がいるため、ネットやテレビなどが伝える市場情報と自分が思っていた相場の背景に明らかな違和感がある場合には、彼らと確認が出来る。ただ、個人投資家の方々などはそうはいかず、大抵はネットやテレビなどの情報を頼りにするしかないだろう。

今朝伝わっている昨晚の海外市場情報も、為替市場については強めの米7~9月期国内総生産(GDP)改定値が市場予想を上回ったことでドル買いが進んだとするような解説がもっぱらだ。確かに円相場などはGDPの発表直後に113円34銭と昨夜のドル最高値を付けているが、相場はここから再び円高方向へ調整に向かっている。米GDP改定値の結果が良かったのは間違いないが、昨夜の市場で多くのディーラー達がより神経質になっていたのは米長期金利の変化だ。トランプ相場も一服、ドルの上昇継続も一旦終了などとの解説も目立つが、一部の人達にしか見えないドル買いのフローも結構あるようだ。確かに市場は大多数が予想する方向へ動きがちだが、誰もが知っている情報に頼り過ぎると相場を見誤ることになりそうな時期に差し掛かっている。

---

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。